



高山西ロータリークラブ

例会報告

第 2630 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1966 年 1 月 15 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 大垣共立銀行 高山支店 4F
- 会長 斎藤 章
- 幹事 井辺 一章
- 会報委員長 伊藤 松寿



「2011 潤沢カール紅葉」 蜘蛛 康介

<会長の時間> 景気循環の波 800 年周期説 : 村山 節氏

<キッチン波>

約40ヶ月の比較的短い周期の循環。短期波動とも呼ばれる。アメリカの経済学者ジョセフ・A・キチンが1923年の論文でその存在を主張したため、「キッチン波」と呼ばれる。主に企業の在庫変動に起因すると見られる。

<ジュグラの波>

約10年の周期の循環。中期波動とも呼ばれる。フランスの経済学者J・クレメンス・ジュグラが1860年の著書の中でその存在を主張したため、「ジュグラの波」と呼ばれる。企業の設備投資に起因すると見られる。

<クズネッツの波>

約20年の周期の循環。アメリカの経済学者サイモン・クズネッツが1930年にその存在を主張したことから、「クズネッツの波」と呼ばれる。約20年という周期は、住宅や商工業施設の建て替えまでの期間に相当することから、建設需要に起因するサイクルと考えられている。子が親になるまでの期間に近いことから人工の変化に起因するとの説もある。

<コンドラチェフの波>

約50年の周期の循環。長期変動とも呼ばれる。ロシアの経済学者ニコライ・ドミートリエビッチ・コンドラチェフによる1925年の研究でその存在が主張されたことから、「コンドラチェフの波」と呼ばれる。この名前を付けたのはシュンペーターで、その要因として技術革新を挙げた。第1波の1780~1840年代は、紡績機、蒸気機関などの発明による産業革命、第2波の1840~1890年代は鉄道建設、1890年代以降の第3波は電気、科学、自動車の発達によると考えた。この循環の要因として、戦争の存在を挙げる説もある。

<幹事報告>

◎ガバナーより

- ・地区大会における表彰のご案内
- 地区表彰「2010-2011 年度インターアクト最優秀クラブ賞」
- 22 日 本会議の席上にて登壇披露

◎ロータリー財団より

- ・「認証額2倍キャンペーン」のご案内

10月24日の世界ポリオデーを記念し、ポリオ・プラスへの100ドル以上のオンライン寄付に2倍の認証ポイントを提供

期間 10月24日(月) 6:00から28日(金)12:00まで

- ・世界ポリオデーに関する公開イベントのご案内

日時 10月24日(月) 15:30~17:30

場所 青山学院大学総研ビル12階

◎濃飛分区ガバナー補佐 高山中央RC会長、IM実行委員長より

- ・濃飛分区インターシティ・ミーティングについての御礼

◎高山RCより

- ・高山5クラブ親善ゴルフコンペの御礼

◎高山市青少年育成市民会議より

- ・平成23年岐阜県青少年健全育成県民大会の開催について

日時 11月13日(日) 13:00~

場所 岐阜市教育研究所 岐阜市芥見南山

◎高山市役所より

- ・高山市政施行七十五周年記念式典および記念講演会のご案内

記念式典: 11月1日(火) 14:00~ 高山市民文化会館大ホール

記念講演: 11月8日(火) 19:00~ 高山市民文化会館大ホール

講師 荒俣 宏 氏「高山はおもしろい」

<例会変更>

加茂 東……………10月6日(木)は、濃飛分区IM参加のため

2日(日) 高山市 に変更

10月27日(木)は、植樹後の手入れ作業のため

9:00~ 川辺町 山楠公園 に変更

11月3日(木)は法定休日のため 休会

11月10日(木)は、健康診断例会のため、

大矢クリニック に 変更

<受贈誌>

台北東海 RC(活動計画書、会員名簿)、不破 RC(会報)、不破の関 RC(会報)、ロータリー米山記念奨学会(ハイライトよねやま139)、社団法人高山市文化協会(広報高山の文化)

<出席報告>

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	36名	8名	44名	44名	100.00%
本日	38名	-	38名	45名	84.44%

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

例会報告

<本日のプログラム> お祝い

◎会員誕生日

伊藤 松寿 10. 1
 挾土 貞吉 10. 1
 (当日欠席)



◎夫人誕生日



山本 善一郎	千代子 さん	10. 1
平 義孝	八重子 さん	10. 21
井辺 一章	和子 さん	10. 3
内田 幸洋	博子 さん	10. 31
田中 正躬	妙子 さん	10. 28
洞口 良一	澄子 さん	10. 19

◎結婚記念日



山本 善一郎	S 34. 10. 16
垂井 政機	S 43. 10. 13
田近 毅	S 46. 10. 21
鍋島 勝雄	S 46. 10. 21
内田 幸洋	S 51. 10. 25
河渡 正暁	S 53. 10. 28
中村 良平	S 54. 10. 6
門前 庄次郎	S 57. 10. 11
古橋 直彦	S 62. 10. 18

◎出席表彰

寺田 昌平
7年



◎在籍周年記念表彰

なし

◎3ヶ月表彰

・内田 幸洋 ・岡田 賛三 ・小田 博司 ・河渡 正暁
 ・斎藤 章 ・堺 和信 ・阪下 六代 ・田中 正躬
 ・寺田 昌平 ・鍋島 勝雄 ・門前庄次郎 ・山本善一郎
 ・協本 敏雄

新会員入会

東 庄豪さん
 (株) キタニジャパン
 代表取締役



S. A. A 担当例会

S. A. A 脇本 敏雄



例会場監督を司るSAAの担当例会にふさわしいゲストという事で検討いたしました。本日は元航空自衛隊の野首忠晴様にお越しいただきました。野首さんは平成3年に斐太高校を卒業

後、航空学生として航空自衛隊に入隊され、F-15戦闘機パイロットとして4機編隊長までの資格を取得されていらっしゃいます。階級としては18階級の上から7番目である1等空尉にまでなれましたが、平成22年に退職され、現在高山にてプログラマーとしての事業を立ち上げられています。

本日は特に航空学生としての厳しい訓練のお話をして頂き、例会での規律についてお考えいただく機会とさせていただければと思っております。

「イーグルドライバー」

への道

野首 忠晴 様

はじめに、今回このような貴重な機会をいただいたことについて、皆様に御礼を申し上げます。私は退職までのおよそ18年間、公務員としてはそれなりの経験を積んできたつもりですが、一般の社会人としては皆様から見ると至らない点があるかと思ひます。何か気になる所がございましたら、後ほど優しくご指導いただければ幸いです。これからお話させていただくのは、私が自衛隊で経験したこ



例会報告

とと学んだことです。自衛隊は公的機関の中でも特に特殊な組織であり、そのような話が皆様のお役に立つものかどうかは判りませんが、その点はどうかご容赦ください。

さて、私は航空自衛隊在職中のおよそ半分の8年間をF-15のパイロットとして勤務してまいりました。F-15、別名イーグルは1機あたりの価格が100億円とも言われる非常に高価な戦闘機で、日本はこれを約200機保有しております。現在の最新鋭機と比べると性能では若干劣りますが、航空自衛隊では今後もしばらくは改修を重ねながら第一線で使われる予定です。

そもそも私が自衛隊の戦闘機パイロットを志したのは高校3年生の夏、自衛隊の広報の一環で行われたヘリコプターの体験搭乗に応募したことがきっかけでした。陸上自衛隊のヘリコプターに乗せてもらった後に航空自衛隊岐阜基地で戦闘機の格納庫を見学させてもらい、そこで見たF-15の格好よさに一目惚れした私は、すぐに引率の自衛隊の方に航空学生を受験したいと伝えました。家に帰りながら、自分だけで決めたのは少々早まったかな、とも思いましたが、家に帰って父に話してみると意外にも喜んでくれました。戦闘機のパイロットになるにはいくつかのコースがありますが、パイロットへの最短コースと言えるのが航空学生という制度です。航空学生は高校卒業者を対象としたパイロット養成コースのようなものです。防衛大学校や一般大学を卒業してパイロットになるコースもありますが、その場合は幹部候補生として入隊して基礎教育を受けた後に職域を割り当てられるため、パイロットを志望して入隊しても、実際にパイロットの道に進めるかどうかは運次第となります。このような事情もあり、すぐにもパイロットになりたかった私は迷わず航空学生を選びました。航空学生の試験は1次から3次試験まであり、1次が筆記試験、2次が面接と身体検査です。ここまでは標準的な学力があって健康なら合格します。ただし、身体検査は視力や聴力を始めとして非常に多くの項目をパスしなければならないため、想像していたよりも高いハードルでした。3次試験は自衛隊の基地に3~4日泊まりこんで行う飛行適性試験で、この間に4回のフライトを行います。もちろん受験生に課されるのは水平直線飛行や定速上昇・降下、左右への旋回などの基本的な機動だけですが、どの程度の水準が合格ラインなのか全く判らないため、合格したかどうかは合格通知が届くまで全く予想できませんでした。

このような試験をなんとかパスし、晴れて航空学生として自衛隊に入隊することになったのですが、すぐに飛行機の操縦をさせてもらえるわけではありません。最初の2年間は体育（持久走、水泳、器械体操、ラグビー、銃剣道など）と学科（法律や規則、流体力学などの専門教育、歴史や哲学などの一般教養）、地上戦闘訓練（ほふく前進などの訓練）といった、自衛官あるいはパイロットとしての基礎をみっちり叩きこまれます。合格者が全国から山口県の防府北基地に到着しますと、それぞれの合格者に対して2年生が1人ずつ割り当てられます。この2年生とのペアのことを「対番（たいばん）」といい、右も左も分からない1年生に航空学生生活のいろはを教えることが対となる2年生の最初の任務となっています。基地に着いた翌日には身体検査があります。全員が2次試験でパスしているはずですが、本当に問題がないかここで最終確認を行うというわけです。実際にこの段階で採用が取り消される者もあり、ひどい話だと思われるかもしれませんが、実はこの時点で多くの者が

基地内の異様な雰囲気を感じ取っています。例えば、朝起きると基地内を半裸で疾走する2年生、常にどこかでこだましている指導官の声、業務開始や消灯の時刻を知らせる不気味なラップの音など、見るもの聞くもの全てが何となくネガティブな未来を予感させます。そういう状況ですから、入隊を目前にして採用を取り消された者たちはそれほど悲壮感を感じさせずに、むしろ爽やかな笑顔すら見せて基地を去って行きます。また、身体検査をパスした者の一部もどさくさに紛れて自ら採用を辞退して去って行き、最終的に入隊する者は合格者数の8割程度になります。その一方で、採用が確定し基地に取り残された私たちは、彼らを見送った後すぐに床屋に行き、坊主にして来いと言われます。もっとも、この時点での立場はまだ自衛官ではなく、あくまでも採用予定者ですので、先輩も指導官もそれなりに優しく接してくれます。入隊式が終わるまでですが、入隊式が終わると、その日の夕方に「対面式」が行われます。お客様扱いが終わり、悪い予感が現実のものとなり始める瞬間です。2年生が一人ずつ1年生の前に出て、ドスの利いた大声で自己紹介を行っていきます。

「1区隊1番、野首忠晴、岐阜県出身、趣味筋トレ、お前ら死ぬ気でついて来い！」

2年生全員がこの調子です。怯える1年生の目には、自己紹介と言うより威嚇にしか映っていません。そして、その日の夜から2年生による本格的な指導が始まります。2年生が教室で自習していると指導係の2年生が2人やってきて、それまでしゃべっていた1年生も凍りついたように静かになります。

「全員目えつむれ」

え？なぜですか？などと考えている余裕はありません。1年生は目をつむらなければ殺されると本能的に察知しているのです。その後何を指導されたのか記憶がありませんが、「ガンッ、ガンッ」と机を蹴る音と罵声が少しずつ自分の方へと近づいてくるときの恐怖だけは今でも忘れません。寮の部屋に戻ると、部屋の中がめちゃくちゃに荒らされています。ロッカーの中には衣類の替りに掃除道具が入られ、ベッドの上にあったマットレスは窓から外へ放り出され、靴棚に入れておいた靴もほとんどが床に転がっています。これはもちろん2年生の仕業です。ロッカーの施錠を忘れて、毛布のたたみ方や靴の揃え方が少しでも悪かったりすると、部屋に帰るたびにこの光景を目にすることになります。2年生によるこのような過激な指導は「対番指導」と呼ばれ、航空学生の伝統となっているのですが、驚いたことに対番指導は航空学生の教育の一環として正式に認められたものなのです。指導の内容や要領は2年生によって事前に計画され、指導官の承認を得た上で実行されています。また、対番指導を主導する指導係は人格・技能ともに優れていると指導官に認められた2年生が務めます。

対番指導の内容をもう少し詳しくお話します。入隊してから2週間、対番指導の一環として朝礼前と夕食後に歌（航空自衛隊の歌や同期の桜などの軍歌）や教練（回れ右や敬礼などの基本動作）の指導が行われます。このとき、決められた集合時刻に一人でも遅れると罰として全員に腕立て伏せが科されます。遅れた秒数がそのまま腕立て伏せの回数になって自分たちの身に返ってきますので、1年生は集合時刻に間に合わせようと必死に頑張りますが、入隊したての1年生がこれを守るのは至難の業です。例えば、30分ほどの間に一度服を着替え、食堂で夕食をとって部屋に戻り、ベッドメイキ

こころの中を見つめよう 博愛を広めるために

例会報告

ングを済ませてから再び訓練用の服に着替えなければなりません。しかしベッドのとり方が雑だとマットレスをひっくり返されてしまいますし、ベルトのバックルの位置がずれているだけでペナルティの対象となるため、全ての行動を細心の注意を払いながら素早く行わなくてはなりません。時間に間に合わない理由を先輩に尋ねられますが、このとき「時間が足りませんでした！」などと答えようものなら「そりゃ時間の使い方が悪いだけだ！」と、すごい剣幕で怒鳴られます。実際、2年生は1年生と同じ事をしながら1年生より早く集合していますから、反論の余地はありません。このような指導を通じて1年生は「何もできない無駄な時間」という意味の「死節時」という言葉を知り、死節時をいかに減らすかが対番指導を乗り切るための重要なポイントであることに気づきます。食堂の列に並ぶ時間をなくすことができれば、それだけで数分間の死節時をなくすることができるというわけです。また同時に、全員が集合時刻を守るためには、皆が協調することが必要であるということも学びます。1年生は、どこに死節時があるか、そしてそれをなくすには何が必要かを話し合い、あらゆる知恵を絞って自分たちの手で時間を作り出していきます。そしておよそ1週間後、ようやく1年生もなんとか2年生に遅れないように集合出来るようになります。

その一方で、2年生もまた対番指導の計画・実行を通じて指導官から厳しい教育を受けています。このとき最初に叩き込まれる言葉が「率先垂範」です。ちなみに2年生を担当する指導官は航空学生出身の現役パイロット、つまり大先輩なので、2年生にとっても非常に怖い存在であり、またパイロットの世界を実際に知っている貴重な存在でもあります。その指導官の言うことですから従わないわけにはいきません。1年生に何かを要求するなら、まずは2年生自身がそれを完璧に出来ることを示し、また、罰を与えるときもそれに付き合っただけでやるのが求められます。ですから、私自身は2年生からどんなに厳しい指導を受けても、それに対して反発心を抱くことはほとんどありませんでした。このような教育によって、パイロットの厳しい上下関係と先輩後輩の信頼関係がしだいに形成されていくのだと思います。

航空学生の2年間は厳しい訓練の連続ですが、それらの中で最も過酷な訓練が2年生の秋に行われる「野外総合訓練」です。夜明け前にたたき起こされてすぐに演習場へ移動し、2泊3日で地上戦闘を行った後、演習場から基地までの60kmの道のりを約20時間かけて歩いて帰るという訓練です。3日間の演習だけでも激しく体力を消耗しますが、その後の行軍はまさに自分との闘いです。体力が限界を迎え始めると、水分不足に耐え切れずに川の水を飲もうとする者、「何でこんなことしなきゃ…」などとうわ言のようにつぶやく者など、さまざまな症状が現れ始めます。そのような状況で私を支えたのは精神力だけでした。「同期生には負けられない」、「自分だけ逃げるわけにはいかない」という気持ちこそが最後まで私を歩かせたのだと思います。基地に戻って靴を脱ぐと片方の足の裏が血まみれでした。靴底に打ち込まれた小さな釘の先がいつの間にか2~3mmほど靴底から突き出しており、それに気づかず歩いてきたようでした。このような経験は、私がその後パイロットになった後も、「あの時はもっと苦しかった」という精神的な支えになっていたと思います。

航空学生にとって、このような苦難を共に乗り越えた同期生は特別な存在です。今年7月に那覇基地のF-15が訓練中に墜落する

事故が発生しましたが、その事故機は私の同期生の川久保2佐(当時3佐)が操縦していました。事故発生後、同期生が捜索活動や原因究明作業の経過などを毎日知らせてくれました。結局、彼の体は全く発見されないまま3ヶ月が経過し、先日、那覇基地内で遺体のない葬送式(自衛隊式の葬儀)が執り行われました。葬儀前夜には同期生の8~9割が那覇に集まり、川久保2佐のご家族をお呼びして同期会を開きました。10年ぶりに再会した同期生もいましたが、訓練生時代の出来事をまるで昨日の事のように思い出しては、夜遅くまで笑って語り合いました。同期生はお互いの性格はもちろん、ホクロの位置や女性遍歴まで知り尽くした仲です。時には本気の喧嘩もありますが、妙な駆け引きや隠し事をする必要もなく、長年連れ添った夫婦のような関係と言っても良いでしょう。自分に何かあったときに、どこからでも駆けつけて助けてくれる同期生は、航空学生にとってかけがえのない存在です。

航空学生の2年間を終えると、いよいよ飛行訓練のコースに入ります。私が訓練生だった頃はF-15のパイロットになるまでに次のような機種でそれぞれ約半年ずつの訓練を行いました。

1. T-3 : 第1初級操縦課程(山口県防府北基地・静岡県静浜基地)
レシプロエンジンの練習機です。セスナ機のような軽飛行機とは異なり、アクロバット飛行が可能な高性能機です。
2. T-1 : 第2初級操縦課程(福岡県芦屋基地)
訓練生が初めて乗るジェット機です。機体重量のわりにエンジン出力が小さく、離陸が怖いシビリアンな飛行機でした。
3. T-4 : 基本操縦課程(静岡県浜松基地)
比較的新しいジェット練習機です。アクロバットチームのブルーインパルスにも使われており、非常に小回りの得意な飛行機です。
4. T-2 : 戦闘操縦課程(宮城県松島基地)
国産初の超音速ジェット機です。ブルーインパルスがT-4の前に採用していた機種です。機関砲が付いており、初めての射撃訓練もこの飛行機で行いました。



飛行訓練が始まると、最初の2年間のような体力勝負の訓練はほとんどありません。そのかわり毎日が生き残りをかけた試験です。フライトごとに点数が付けられ、一

定の基準を満たさない者は先に進めません。自動車学校のやり方にも似ていますが、最短4回のフライトでパイロットへの道を絶たれるという点が異なります。また、教官がやたら怖いのも自動車学校とは大きく違います。フライト前に訓練の流れや着眼点を教官に説明するブリーフィングで怒鳴られ、フライト中のミスで怒鳴られ、フライト後の指導中も怒鳴られ、ほとんど1日じゅう怒鳴られっぱなしです。私はどちらかと言うと褒められて伸びるタイプなので、怒鳴られっぱなしの生活はなかなか辛いものでした。もっとも、訓

例会報告

練生とはいえフライトには多額の経費がかかりますので、自動車学校の講習のように優しく教えてもらえないのは当然です。また、教官からのプレッシャーに屈するようでは、実際の任務に就いたときに敵に勝てるわけがありません。というような事を教官に言われながら各課程をなんとか卒業し、ついにパイロットの資格を得るに至りました。この時まで、訓練生のフライトスーツには布製のしょぼい名札が付いているのですが、パイロットの資格を得たその日から、ウィングマークと呼ばれる鷲のマークが刺繍された名札を着けることが許されます。それまでの4年間はこの瞬間のためにあったと言っても過言ではありません。ここまで来れば、F-15のコックピットは自分の予約席になったようなもの、その時はそう思っていました。結局この後もプレッシャーから解放されることはついにはありませんでした。F-15のパイロットになってからも、アラート待機要員、2機編隊長、4機編隊長といった上級の資格を取るために、それまで以上のプレッシャーにさらされ続けることになります。

F-15は非常に機動性の高い戦闘機で、急旋回時には最大9Gがかかります。パイロットの頭がヘルメット込みで10kgだとすると、最大で90kgもの重量が首にかかることになります。長年の訓練によって首や腰を傷めるパイロットも多く、椎間板ヘルニアなどは戦闘機パイロットの職業病と言われています。また、大きなGは脳内の血流量不足もたらします。最初は視覚が狭くなって見ているものの色が判らなくなる「グレイアウト」、次に視覚がなくなる「ブラックアウト」、最後は意識を失う「G-LOC」に陥ります。そこで、戦闘機パイロットには定期的に訓練を行うことが義務付けられており、そこで耐G能力を高めると共に自身のG耐性を把握することになっています。Gによる荷重自体はたいして辛いものではありませんが、大きな荷重がかかった状態で敵から目を離さないように体や首を捻り続け、また脳の血流を維持するためには腹部や脚に力を入れ続けなければならないため、ひどく体力を消耗したり体を傷めたりするのです。

戦闘機パイロットの仕事は辛いだけではなく、ときどき楽しいこともあります。たとえば航空祭の展示飛行です。毎年、航空祭には何万人という来場者が訪れますが、展示飛行を終えてオペレーションルームに戻るときの来場者からの拍手は実に気持ち良く聞こえるものです。戦闘機パイロットには華やかなイメージがありますが、実際の訓練や任務は意外に地味で辛いものばかりです。一般の方の目に触れることもありません。ですから、年に1度の航空祭が非常に楽しみだったりします。もう一つの楽しい仕事は単独での長距離飛行です。戦闘機は通常2機以上の編隊を組んで飛びます。1機だけで飛ぶことは基本的にありません。訓練空域や飛行ルートも決められており、空での活動には意外に多くの制約があります。ところがたまに、定期点検などのために飛行機を別の飛行場に運ぶという任務をもらうことがあります。先輩や後輩の目を気にすることなく、ルートも自分で自由に計画することができ、自衛隊以外の管制官と話ができるので、とても楽しい仕事でした。

そろそろ終了の時刻となりますので私の話はこの辺りで終わりとさせていただきます。あまり皆様の参考にはならなかったかもしれませんが、せめてこの国にも命を削りながら自らの責務を果たそうとしている者がいるということを知っていただけたら幸いです。ご清聴、誠にありがとうございました。

<ニコニコボックス>

●斎藤 章さん

①本日のゲスト、野首忠晴様よくおいで下さいました。卓話宜しくお願ひ申し上げます。

②東庄豪さんの入会を歓迎申し上げます。よろしくお願ひ申し上げます。

●井辺 一章さん

東さんご入会ありがとうございます。一緒に楽しみましょう。

野首さんようこそ!!ありがとうございます。ご講演楽しみにしております。

●脇本 敏雄さん、平 義孝さん、小林 勝一さん、小田 博司さん

①野首忠晴様のご来訪を歓迎いたします。本日は卓話を楽しみにしています。よろしくお願ひします。

②東 庄豪さんのご入会を歓迎いたします。今後ともよろしくお願ひします。

●東 庄豪さん

本日、高山西ロータリークラブに入会させていただきます。今までと違った視点で社会奉仕させていただきたいと思ひます。よろしくお願ひ申し上げます。

●阪下 六代さん

本年度5人目の新会員 東 庄豪さんのご紹介を出来る事を嬉しく思ひます。今後とも会員増強に対する皆さんのご支援をお願ひいたします。

●鍋島 勝雄さん

9、10日晴天に恵まれて高山祭りも終了しました。10年振りの生演奏で布袋様も生き生きと舞ってくれました。また、東さんの入会ありがとうございます。

●伊藤 松寿さん

10月2日に開かれた濃飛分区IMで初めてファシリテーターを務めさせていただきました。恰好が付きホッとしています。皆様のご協力に感謝して。

●米澤 久二さん

先日焼岳に登りました。体力がまだあることに自信を持ちましたが、靴を家に忘れ、丹生川でUターンしました。こちらの方は自信をすっかりなくしました。

●小森 丈一さん

漢字だけの俳句を投稿しましたら稲畑汀子氏に採って頂きましたので。

●田中 正躬さん

9月15日に出席したまま色々あって1ヶ月ぶりの出席、何か懐かしい気がします。その間に稲刈りしたり、カナダ旅行したり、交通安全・防犯協会などの表彰を受けるなど嬉しい事もありましたので。